学校番号	414

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	論理国語	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「論理国語」　（株式会社筑摩書房）						
副教材等	「大学入試に出た　核心漢字 2500＋語彙 1000」（尚文出版株式会社） 「練成現代文」（尚文出版株式会社） 「新版新訂総合国語便覧 2024」（第一学習社） 「国語便覧ワークノート」（第一学習社） 「徹底演習　新しい共通テスト国語対策問題集［現代文＋古典］35」（株式会社桐原書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本科目は２年次の「論理国語」の後継科目として、２年次よりもさらに抽象的な概念を取り扱う評論的な文章を扱っていく。本科目で扱う文章においては、さまざまな専門的見地に基づいた多様な角度からの思索が著されている。主題に対する各々の筆者の見解や主張を的確につかみ、論理的な思考を踏まえた意見を持つことができることを本科目の最終的な到達目標とする。複雑さを増す今日の社会を生き抜くために必要な教養の一端を、本科目で涵養することができたならば望外の喜びである。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	多様性のほうへ ［教材］ 岡真里「虚ろなまなざし」 (p.274～p.281)	a：読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている b[読]：読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	抽象から具体へ ［教材］ 野家啓一 「物語と歴史のあいだ」 (p.282～p.288)	a：読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 b[書]：レポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	可視化する力 ［教材］ 北田暁大「つながりと秩序」 (p.306～p.313)	a：文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。 b[読]：読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
二学期	［教材］ 大森荘蔵「真実の百面相」 (p.314～p.321)	a：文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている。 b[読]：人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。 c： 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	語りと世界 ［教材］ 野口裕二「物語としての自己」 (p.338～p.345)	a：読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 b[読]：読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察

	「当たり前」を疑う ［教材］ 蓮實重彦「思考の誕生」 (p.354～p.359)	a：読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。 b[書]：レポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	［教材］ 前田英樹「絵画の二十世紀」 (p.360～p.369)	a：読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。 b[書]：レポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	「近代」を再読する ［教材］ 仲正昌樹 「何のための『自由』か」 (p.389～p.395)	a：文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。 b[読]：読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
三学期	記号がつくる世界 ［教材］ 木村敏「ものとこと」 (p.398～p.406)	a：「ものとこと」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。 b[読]：読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	記述の確認 定期考査 小テスト	記述の確認 定期考査	行動の確認 と観察
	［教材］ 中井久夫 「戦争と平和についての観察」 (p.436～p.445)	a：文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている。 b[読]：読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。 c：言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。			

４　学習の活動

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準ｂ[　]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　０　　）時間

・書くこと　　…　（　２５～３０　）時間

・読むこと　　…　（　４０～４５　）時間